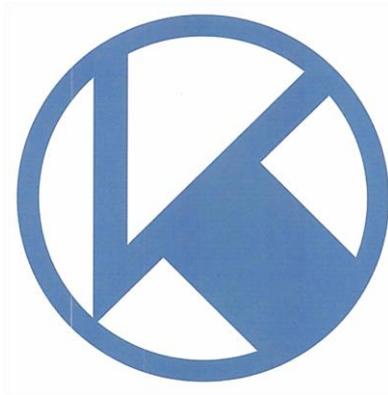


2021 年度
郡山健康科学専門学校
講義概要



作業療法学科
2 年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科 2020年度生 履修一覽

1年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活 社会の理解	心理学	●
	法学	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	外国語(英語)	
	コミュニケーション論	●
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I	●
	解剖学 II	●
	人体の構造と機能	●
	生理学 I	●
	生理学 II	●
	生理学実習	●
	運動学 I	●
	人間発達学	●
	公衆衛生学概論	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	看護・介護概論	
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法概論	●
	作業療法演習 I	
	作業療法演習 II	
地域作業療法学	生活環境論	●
作業療法管理学	医療倫理・職業倫理	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活 社会の理解	医療英会話	
	人体の構造と機能及び心身の発達	
	解剖学実習	●
	運動学 II	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
	基礎作業療法学	応用作業療法学
作業療法演習 III		
作業療法研究法 I		●
作業療法評価学	作業療法評価学 I	●
	作業療法評価学 II	●
	作業療法評価学 III	●
作業療法治療学	日常生活技術論	●
地域作業療法学	レクリエーション(選択必修)	
	障害者スポーツ(選択必修)	
臨床実習	見学実習	

3年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	作業療法研究法 II	●
作業療法評価学	作業療法評価演習	
作業療法治療学	日常生活技術演習	●
	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	高次脳機能治療学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	内部障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学	●
	末梢神経系作業療法学	●
	臨床作業療法学	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	臨床実習 I	

4年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	総合演習 I	●
	総合演習 II	●
作業療法管理学	作業療法管理学	●
臨床実習	在宅リハビリテーション実習	
	臨床実習 II	

1. 基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療英会話		Robert Holt			一般 田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
The syllabus is designed to give students exposure to medical English. Lessons will focus on a topic that will allow students to practise English as either a doctor or a patient.					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
Students will be expected to use English in class. English will be presented in a number of ways, i.e. reading, listening etc, and students will be expected.				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験	
【履修上の注意】 Homework as and when set. Students will need a dictionary in class.					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	Chapter 1 Polio	Discussing health state with hospital receptionist.			個人・グループ
2	Chapter 2 Prescription	Reading comprehension – Prescription. Common vocabulary. Talking to the doctor.			個人・グループ
3	Chapter 3 Hay Fever	Reading comprehension – Hay Fever, allergy. Common vocabulary. Common doctor questions.			個人・グループ
4	Chapter 4 Diarrhoea	Reading comp. – Anti-Diarrheal/Anti-gas. Common vocab. Describing ailment.			個人・グループ
5	Chapter 5 Sleeping problems	Reading comp. – Sleep problems. Common vocabulary. Talking about causes of sleep problems / stress.			個人・グループ
6	Chapter 6 SARS	Reading comp. – SARS. Common vocab. Describing treatment.			個人・グループ
7	Chapter 7 Diabetes	Reading comp. – Diabetes. Common vocab. Confirming information.			個人・グループ
8	Chapter 8 Arterial Diseases	Reading comp. – Arterial Diseases. Common vocab. Everyday medical conversation.			個人・グループ
9	Chapter 9 Health Insurance	Reading comp. – Health Insurance in the US. Common vocab. Giving advice.			個人・グループ
10	Chapter 10 Food allergies	Reading comprehension – Food allergies. Common vocab. Showing concern.			個人・グループ
11	Chapter 11 Carpal Tunnel Syndrome	Reading comp. – Carpal Tunnel Syndrome. Common vocab. Asking follow up questions.			個人・グループ
12	Chapter 12 Sports Injuries	Reading comp. – Sports related injuries. Common vocab. Describing pain; pain scales.			個人・グループ
13	Chapter 13 The Change of Life	Reading comp. – The change of life. Common vocab. Everyday conversation.			個人・グループ
14	Chapter 14 Vitamin D	Reading comp. – Vitamin D. Common vocab. Everyday medical conversation.			個人・グループ
15	Chapter 15 Flu Shots	Reading comp. – Flu Shots. Common vocab. Everyday medical conversation.			個人・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】		English For Medicine – T. Nishihara, M. Nishihara and A Martin.			
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 毎回授業開始時の小テスト準備のための学習					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

2. 専門基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学実習		吉田 久美			一般 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	演習・実習	1
【授業の概要・目的】					
身体運動に関する神経系・筋系の形態・構造・機能について理解できる。臨床医学の土台としての脳神経系・脳構造を理解できる。また内臓系の構造的な理解や機能の理解を深めることができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①DVD教材を活用して人体の解剖学的構造の理解を深められる。 ②解剖学的構造を理解した上で各臓器の形態学的・機能的特徴を説明できる。 ③筋の起始・停止および走行を説明できる。 ④構造・形態・機能の特徴と疾患を結びつけられる。 ⑤専門職として、身体接触を伴う治療を行う自覚と責任を高める。				知識・理解 態度・志向性 統合的学習体験 創造的思考力	
【履修上の注意】ご献体に触れる前に1年次で学習した内容をしっかりと復習するようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	講義ガイダンス 吉田		解剖学実習を実施する目的・方法・内容を理解し説明できる。専門職として実施する意義を理解する準備ができる。		個人
2	学内解剖学実習① 吉田		DVDおよび脳標本等を活用し、脳の構造と機能を確認し説明することができる。		個人
3	学内解剖学実習② 吉田		DVDおよび骨標本等を活用し、上肢の構造と機能を確認し説明することができる。		個人
4	学内解剖学実習③ 吉田		DVDおよび骨標本等を活用し、下肢の構造と機能を確認し説明することができる。		個人
5	学内解剖学実習④ 吉田		DVDおよび骨等を活用し、体幹の構造と機能を確認し説明することができる。		個人
6	学内解剖学実習⑤ 吉田		DVDおよび人体模型を活用し、内臓の構造と機能を確認し説明することができる。		個人
7	特別講義 解剖学実習受入施設 教授		解剖学の理解を深められる。解剖学実習での要点およびご献体の取り扱いについて理解し実践の準備ができる。		個人
8	特別講義 解剖学実習受入施設 教授		解剖学の理解を深められる。解剖学実習での要点およびご献体の取り扱いについて理解し実践の準備ができる。		個人
9	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
10	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
11	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
12	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
13	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
14	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
15	解剖学実習		ご献体に触れ、脳・神経系、身体運動器の構造と機能について理解を深めることができる。		個人
期末試験	解剖学実習時のレポート		評価方法	レポート 70% 受講態度 30%	
【教科書】		1年次の解剖学で使用した教科書および参考書を使用するので持参すること。			
【参考書】		講義で随時紹介します。			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学実習後のレポート課題			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野 真一			病院(作業療法士)7年勤務 高野
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業・活動の成り立ちを理解するため、ヒトの基本的な動き・運動を学ぶ。特にここでは様々な身体の動き・運動とその繋がりを理解・整理できることを目標とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 人体の部位や箇所、複合的な運動の理解をする。 ② 姿勢や基本的動作の基本的用語を理解する。 ③ 健常者の姿勢、基本的動作の特徴を説明できる。 ④ 疾患の特徴をふまえた姿勢、基本的動作の特徴を理解する。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】実技が中心になるが、必要な教科書を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	科目ガイダンス	四肢・体幹の運動について、筋の起始停止、神経等について説明できる。(Keyword ; 骨学, 関節学, 筋学, 神経学)			ペア・グループ
2	運動力学の基礎(1)	姿勢・動作を生体力学的に理解し、説明できる。(Keyword ; 運動軸と面, 重力, 支持基底面, 姿勢)			ペア・グループ
3	運動力学の基礎(2)	姿勢・動作を生体力学的に理解し、説明できる。(Keyword ; てこ, 力のモーメント, 姿勢・動作)			ペア・グループ
4	姿勢(1) 基本姿勢・動作	姿勢の定義、分類について学び、様々な動作の中での基本姿勢について説明できる。(Keyword ; 構え, 体位, アライメント)			ペア・グループ
5	姿勢(2) 臥位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。(Keyword ; 背・腹・側臥位, 抗重力活動)			ペア・グループ
6	姿勢(3) 座位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。(Keyword ; 各種座位, 支持基底面, アライメント)			ペア・グループ
7	姿勢(4) 立位	姿勢の仕組みと特徴について学び、支持基底面と重心位置、その特徴について説明できる。(Keyword ; 重心線の位置, 最適な立位)			ペア・グループ
8	基本姿勢のまとめ	前の4回の講義を統合し、それぞれの姿勢の特徴を整理する。			ペア・グループ
9	実技試験 (触診)	実技試験オリエンテーション。 臨床場面に適した接遇態度について理解する。			個人
10	体位変換(1)	体位変換(寝返り・起き上がり)について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword ; 姿勢変換動作, パターン, 動き出しの部位)			ペア・グループ
11	体位変換(2)	体位変換(立ち上がり)について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword ; 姿勢変換動作, パターン, 動き出しの部位)			ペア・グループ
12	移動・歩行(1)	歩行の仕組みについて理解を深める。(Keyword ; 歩行周期, 分類, 観察)			ペア・グループ
13	移動・歩行(2)	歩行について運動学的用語を用い説明できる。(Keyword ; 分類による特有の役割, 観察分析)			ペア・グループ
14	移動・車椅子	移動動作(車椅子)の動作について理解を深める。(Keyword ; 車椅子の操作, 身体の働き)			ペア・グループ
15	実技試験 (触診)	指示された部位についての触診手順を説明することが出来る。 患者役に対し、臨床に合わせた適切な対応を取ることができる。			個人
期末試験	前期試験	評価方法	筆記試験 50% 実技試験 30%	小テスト 20%	
【教科書】	隈元庸夫: 症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作(ヒューマンプレス) 中村隆一著: 基礎運動学 第6版(医歯薬出版)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		記載のKeywordを元に予習をすること。googleclassroomを通じて、事前に資料を配布。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		高野 真一			病院(作業療法士)7年勤務 高野
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業・活動の成り立ちを理解するため、ヒトの基本的な動き・運動を学ぶ。特にここでは様々な身体の動き・運動とその繋がりを理解・整理できることを目標とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 人体の部位や箇所、複合的な運動の理解をする。 ② 姿勢や基本的動作の基本的用語を理解する。 ③ 健常者の姿勢、基本的動作の特徴を説明できる。 ④ 疾患の特徴をふまえた姿勢、基本的動作の特徴を理解する。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】実技が中心になるが、必要な教科書を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	基本姿勢(疾患別特徴)	基本姿勢における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察を挙げることができる。(Keyword; 片麻痺、脊髄損傷、関節障害、特徴)			ペア・グループ
2	体位変換(疾患別特徴)	体位交換における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察を挙げることができる。(Keyword; 片麻痺、脊髄損傷、関節障害、特徴)			ペア・グループ
3	移動・歩行(疾患別特徴)	移動・歩行における各疾患の特徴を理解し、運動学的視点のもと考察を挙げることができる。(Keyword; 片麻痺、脊髄損傷、関節障害、特徴)			ペア・グループ
4	基本動作のまとめ	基本姿勢・動作について疾患の特徴をふまえ、臨床場面における捉え方を理解する。			ペア・グループ
5	運動学的分析	運動学的分析について理解を深める。 ()			ペア・グループ
6	作業・動作分析(1)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword; 工程分析、動作分析)			ペア・グループ
7	作業・動作分析(2)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword; 動作分析、運動分析)			ペア・グループ
8	作業・動作分析(3)	人の動作について、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword; 運動分析、気になる点を列挙する)			ペア・グループ
9	作業・動作分析 発表報告①	前の3回で進めた課題の発表			ペア・グループ
10	作業・動作分析(4)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword; 疾患の特徴、工程分析、動作分析、運動分析)			ペア・グループ
11	作業・動作分析(5)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword; 気になる点を列挙する、考察)			ペア・グループ
12	作業・動作分析(6)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 (Keyword; 考察を裏付ける)			ペア・グループ
13	作業・動作分析 発表報告①	前の3回で進めた課題の発表			ペア・グループ
14	作業・動作分析(7)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 レポート作成			個人
15	作業・動作分析(8)	疾患の特徴を理解し、動作観察・分析を演習課題とする。 レポート作成			個人
期末試験		評価方法	レポート 発表会の結果	60% 20%	課題の達成度 20%
【教科書】	隈元庸夫:症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作(ヒューマンプレス) 中村隆一著:基礎運動学 第6版(医歯薬出版)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		記載のKeywordを元に予習をすること。googleclassroomを通じて、事前に資料を配布。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
病理学		田村 浩一			一般 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
「病気ってなに?」「人はなぜ病気になるの?」「病気になるとどうなるの?」ということを解き明かすのが病理学です。「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出るの?」を考えながら病気について学びましょう。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①「病気ってなに?」を理解できる ②「人はなぜ病気になるの?」を理解できる ③「病気になるとどうなるの?」を理解できる ④「病気と正常はどこが違うの?」を理解できる ⑤「なぜ違いが出るの?」を理解できる				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	病因論	イントロダクション:病気ってなあに? ヒトはなぜ病気にかかるの?			個人
2	遺伝子異常と発生発達異常	遺伝子の異常で病気になるしくみを知ろう 遺伝性疾患と先天性奇形は、どこが違う?			個人
3	細胞傷害と修復(1)	身体の傷はどうやって治る? 完全に元通りに治せない場合の「修復」のしかたは?			個人
4	細胞傷害と修復(2)	組織が死んだあとはどうなるの? 肥大や萎縮と修復の関係を知ろう			個人
5	代謝障害(1)	物質の代謝がうまくいかなくなるしくみを考えよう あなた、貧血はありませんか?			個人
6	代謝障害(2)	糖尿病ってどんな病気? 実は赤ちゃんの時から進んでいる、動脈硬化のお話			個人
7	循環障害(1)	血の巡りが悪いパターンにはどんなものがある? 心筋梗塞はなぜ起こる?			個人
8	循環障害(2)	エコミークラス症候群はなぜ起こるの? 医学的にいうショックとは?			個人
9	炎症(1)	炎症は身体の防御反応!? サイトカインってなあに?			個人
10	炎症(2)	急性炎症と慢性炎症のちがいを知ろう 免疫のしくみを知ろう			個人
11	炎症(3)	花粉症はありませんか?アレルギーについて知っておかねばならないこと 自己免疫疾患ってどんな病気?			個人
12	腫瘍(1)	そもそも腫瘍って何だ? 腫瘍についてのさまざまな用語を知ろう			個人
13	腫瘍(2)	癌(がん)と肉腫の違いは? 悪性腫瘍の特徴を説明できますか?			個人
14	腫瘍(3)	どうしてがんになるの? 腫瘍の病理診断(腫瘍の写真をみてみよう)			個人
15	まとめ	病理(細胞診・組織診・病理解剖)で何がわかるの? 病理診断について知っておかなければならないこと			個人
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	図解入門よくわかる病理学の基本としくみ(秀和システム),図解入門よくわかる病理診断学の基本としくみ(秀和システム)				
【参考書】	シンプル病理学 改訂第6版 笹野公伸他(南江堂)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床心理学		吉田 久美			一般 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
臨床心理学は「ひと」を理解し、実践的な介入技法を身につけることができます。神経心理学的な側面から「ひと」を理解しリハビリテーションの効果をより高めるための評価結果の解釈や介入方法を体験し習得します。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①リハビリテーションに活用できる臨床心理学の基礎知識を身につけることができる。 ②神経心理学的な検査を実施でき、検査結果の見方を身につけることができる。 ③対象者の心理的背景を理解することができる。 ④リハビリテーションに有効活用できる心理学的な技法を体験し実践できる。 ⑤自己理解を深めることができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】神経心理学的検査や技法は体験しながら学びます。主体的に参加して学ぶようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	臨床心理学講義概要と臨床心理学のリハビリテーションにおける有用性を理解できる。			個人・ペア
2	防衛機制①	防衛機制の基礎知識を理解できる。リハビリテーションにおける転移・逆転移を理解し、対応の準備ができる。			個人・ペア
3	防衛機制②	防衛機制の基礎知識を理解できる。リハビリテーションにおける転移・逆転移を理解し、対応の準備ができる。			個人・ペア
4	防衛機制③	防衛機制の基礎知識を理解できる。リハビリテーションにおける転移・逆転移を理解し、対応の準備ができる。			個人・ペア
5	心理検査法①	心理検査法(投影法)を体験しながら理解することができる。結果の解釈と活用方法について理解し説明できる。			個人・ペア
6	心理検査法②	心理検査法(質問紙法)を体験しながら理解することができる。結果の解釈と活用方法について理解し説明できる。			個人・ペア
7	心理検査法③	心理検査法(作業検査法)を理解することができる。結果の解釈と活用方法について理解し説明できる。			個人・ペア
8	心理療法①	心理療法(森田療法・自律訓練法・精神分析療法)を体験しながら理解することができる。活用方法を説明できる。			個人・ペア
9	心理療法②	心理療法(認知療法・行動療法・認知行動療法)を体験しながら理解することができる。活用方法を説明できる。			個人・ペア
10	心理療法③	心理療法(心理劇・バイオフィードバック・マインドフルネス)を体験しながら理解し、活用方法を説明できる。			個人・ペア
11	治療的応用①	応用行動分析を活用したリハビリテーションアプローチについて理解し、実践の準備ができる。			個人・ペア
12	治療的応用②	来談者中心療法を活用した「面接」を体験し、リハビリテーションでの使用方法を理解、実践のための準備ができる。			個人・ペア
13	治療的応用③	障害受容(適応)過程に応じた対応方法について事例を通して理解し、実践のための準備ができる。			個人・ペア
14	治療的応用④	記憶と学習について神経心理学的な理解ができ、リハビリテーション過程での実践のための準備ができる。			個人・ペア
15	臨床心理学のまとめ	心理検査・心理療法・防衛機制について基礎知識の総復習ができ、国家試験出題ポイントを理解できる。			個人・ペア
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 筆記試験	30% 70%	
【教科書】	特に指定しません。				
【参考書】	心理学のすべてがわかる本 ナツメ社、カラー徹底図解 心理学 新星出版社 リハベーシック 心理学・臨床心理学 医歯薬出版株式会社				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義時間内で取り組めるようにしています。講義内容をぜひ復習してください。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内科学(1/2)		薄井 俊介			一般 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
内科学を系統立て、各疾患および治療等に対する理解を深め、以後のリハビリテーションに関わる際の基礎知識として役立てることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患・治療に関する知識を習得する。 ②疾患に関する知識を、作業療法の対象疾患としてとらえることができる。 ③疾患・治療に関する知識を、他の専門科目と結び付けることができる。 ④ ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】解剖学、生理学の復習をして授業に臨むことが望ましい。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	内科学総論①	内科診療の基本について学び、視診や触診などの診察方法のポイントや原理について理解する。			個人
2	内科学総論②	内科疾患に対して行われる種々の検査法と主な症候を			個人
3	呼吸器疾患①	呼吸器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、呼吸器疾患の各症候について理解する。			個人
4	呼吸器疾患②	呼吸器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な呼吸器疾患について理解する。			個人
5	呼吸器疾患③	呼吸器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な呼吸器疾患について理解する。			個人
6	循環器疾患①	循環器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、循環器疾患の各症候について理解する。			個人
7	循環器疾患②	循環器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な循環器疾患について理解する。			個人
8	循環器疾患③	循環器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な循環器疾患について理解する。			個人
9	消化管疾患①	消化器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、消化器疾患の各症候について理解する。			個人
10	消化管疾患②	消化器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な消化器疾患について理解する。			個人
11	消化管疾患③	消化器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な消化器疾患について理解する。			個人
12	肝・胆・膵疾患①	肝・胆・膵臓の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、肝・胆・膵疾患の各症候について理解する。			個人
13	肝・胆・膵疾患②	肝・胆・膵疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な肝・胆・膵疾患について理解する。			個人
14	代謝性疾患①	代謝系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、代謝性疾患の各症候について理解する。			個人
15	代謝性疾患②	代謝性疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な代謝性疾患について理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	なるほどなっとく内科学(南山堂)				
【参考書】	メディカルスタッフのための内科学(医学出版社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		次の授業で触れる内容について、生理学の内容の復習をしておくこと。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内科学(2/2)		薄井 俊介			一般 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
内科学を系統立て、各疾患および治療等に対する理解を深め、以後のリハビリテーションに関わる際の基礎知識として役立てることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①疾患・治療に関する知識を習得する。 ②疾患に関する知識を、作業療法の対象疾患としてとらえることができる。 ③疾患・治療に関する知識を、他の専門科目と結び付けることができる。 ④ ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】解剖学、生理学の復習をして授業に臨むことが望ましい。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	内分泌疾患①	内分泌系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、内分泌疾患の各症候について理解する。			個人
2	内分泌疾患②	内分泌疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な内分泌疾患について理解する。			個人
3	腎・泌尿器疾患①	腎・泌尿器系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、腎・泌尿器疾患の各症候について理解する。			個人
4	腎・泌尿器疾患②	腎・泌尿器疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な腎・泌尿器疾患について理解する。			個人
5	脳・神経疾患①	脳・神経系の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、脳・神経疾患の各症候について理解する。			個人
6	脳・神経疾患②	脳・神経疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な脳・神経疾患について理解する。			個人
7	血液疾患①	血液・血球の解剖と生理について、1年次の学習内容の確認を行い、血液疾患の各症候について理解する。			個人
8	血液疾患②	血液疾患の検査法と主な治療法について学び、主要な血液疾患について理解する。			個人
9	膠原病・アレルギー疾患①	膠原病の検査法と主な治療法について学び、主要な膠原病について理解する。			個人
10	膠原病・アレルギー疾患②	アレルギー疾患の検査法と主な治療法について学び、主要なアレルギー疾患について理解する。			個人
11	感染症①	感染症の検査法と主な治療法について学び、主要な感染症について理解する。			個人
12	感染症②	感染症の検査法と主な治療法について学び、主要な感染症について理解する。			個人
13	環境要因に基づく疾患	熱中症など環境要因に起因する疾患について、どのような障害が起こるか理解する。			個人
14	中毒症	アルコール中毒や薬物中毒について理解し、どのような障害が起こるかを理解する。			個人
15	まとめ	内科学の授業で触れた疾患の振り返りを行い、作業療法との関連について理解を深める。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	なるほどなっとく内科学(南山堂)				
【参考書】	メディカルスタッフのための内科学(医学出版社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		次の授業で触れる内容について、生理学の内容の復習をしておくこと。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
整形外科学(1/2)		猪狩 貴弘/薄井 俊介			一般 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
整形外科疾患対象者の評価や治療を行う為に必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断の種類・方法や治療法の理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①筋・骨格系の機能と構造を述べる事が出来る。 ②整形外科的診察法を具体的に述べる事が出来る。 ③代表的な整形外科疾患を分類し説明することができる。 ④ ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】理解が難しい点があれば、すぐ教員に質問すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	骨・関節の構造・生理 薄井	骨および関節の構造と生理について理解し、整形外科疾患の理解につなげることができるようになる。			個人
2	骨・関節軟骨の修復と再生 薄井	骨および関節軟骨の、修復・再生の機序を生理学的に理解し、整形外科治療の理解につなげる。			個人
3	筋・神経の構造・生理と「痛み」 薄井	筋・神経の構造と生理について理解するとともに、「痛み」の生理学的理解、評価、治療について理解できるようになる。			個人
4	整形外科診療の基本 薄井	整形外科診療の基本である視診や触診について、その項目やポイントを理解する。			個人
5	整形外科の評価 薄井	整形外科疾患の診断に必要な評価項目や方法を理解して、各論の理解につなげる。			個人
6	整形外科診断で用いられる検査 薄井	整形外科診断で用いられる画像検査や検体検査の種類や方法を理解して、各論の理解につなげる。			個人
7	整形外科治療総論 薄井	整形外科疾患の治療の基本について、「保存療法」、「手術療法」それぞれの特徴を理解する。			個人
8	肩の診察・検査法 猪狩	肩関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
9	肩関節疾患 猪狩	肩関節疾患を理解し、説明することができる			個人
10	肘の診察・検査法 猪狩	肘関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
11	肘関節疾患 猪狩	肘関節疾患を理解し、説明することができる			個人
12	手・手指の診察・検査法 猪狩	手・手指関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
13	手関節・手指疾患 猪狩	手・手指関節疾患を理解し、説明することができる			個人
14	脊柱の診察・検査法 猪狩	脊椎疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
15	脊椎疾患 猪狩	脊椎疾患を理解し、説明することができる			個人
期末試験	前期末試験(筆記)	評価方法	筆記試験 課題の達成度	90% 10%	
【教科書】	標準整形外科学 第14版(医学書院)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1年次「解剖学Ⅰ・Ⅱ」の復習を、授業に応じて行っておくこと。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
整形外科学(2/2)		猪狩 貴弘/薄井 俊介			一般 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
整形外科疾患対象者の評価や治療を行う為に必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断の種類・方法や治療法の理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①筋・骨格系の機能と構造を述べる事が出来る。 ②整形外科的診察法を具体的に述べる事が出来る。 ③代表的な整形外科疾患を分類し説明することができる。 ④ ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】理解が難しい点があれば、すぐ教員に質問すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	整形外科疾患各論の振り返り① 薄井	前期の各論で触れた内容の振り返りを行い、疾患の特徴、評価や治療について理解を深める。			個人
2	整形外科疾患各論の振り返り② 薄井	前期の各論で触れた内容の振り返りを行い、疾患の特徴、評価や治療について理解を深める。			個人
3	整形外科疾患総論① 薄井	各論で触れられない全身疾患について、特徴や評価、治療について理解する。			個人
4	整形外科疾患総論② 薄井	各論で触れられない全身疾患について、特徴や評価、治療について理解する。			個人
5	運動器疾患のリハビリテーション① 薄井	運動器疾患に対するリハビリテーション手技の基本について理解する。			個人
6	運動器疾患のリハビリテーション② 薄井	事例を基に、運動器リハビリテーションの評価計画を立てる。			グループ
7	運動器疾患のリハビリテーション③ 薄井	事例を基に、運動器リハビリテーションのプログラムを立案する。			グループ
8	股関節の診察・検査法 猪狩	股関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
9	股関節疾患 猪狩	股関節疾患を理解し、説明することができる			個人
10	膝関節の診察・検査法 猪狩	膝関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
11	膝関節疾患 猪狩	膝関節疾患を理解し、説明することができる			個人
12	足関節の診察・検査法 猪狩	足関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる			個人
13	足関節疾患 猪狩	足関節疾患を理解し、説明することができる			個人
14	外傷・スポーツ外傷① 猪狩	外傷・スポーツ外傷に対する診察法や検査法を理解し実施できる。外傷・スポーツ外傷を理解し、説明することができる			個人
15	外傷・スポーツ外傷② 猪狩	外傷・スポーツ外傷に対する診察法や検査法を理解し実施できる。外傷・スポーツ外傷を理解し、説明することができる			個人
期末試験	前期末試験(筆記)	評価方法	筆記試験 課題の達成度	90% 10%	
【教科書】	標準整形外科学 第14版(医学書院)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1年次「解剖学Ⅰ・Ⅱ」の復習を、授業に応じて行っておくこと。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経内科学(1/2)		佐藤 光夫 , 作業療法学科教員			一般 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
疾患の病態を理解するため、神経内科学の一般的知識を得る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 疾患の病態について説明できる。 ② 各種神経学的検査法について説明できる。 ③ 代表的な疾患の作業療法について説明できる。 ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】 教科書, 配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	運動麻痺, 錐体路徴候, 筋萎縮 (薄井 4/20①)	随意運動の障害について学ぶ。 錐体路徴候について説明できる。			個人
2	錐体外路徴候, 不随意運動 (薄井 4/27①)	錐体外路徴候について学ぶ。 錐体外路徴候について説明できる。			個人
3	神経学的検査法 (佐藤 4/28④)	X線検査, CT検査, MRI検査について学ぶ。 各種検査の目的と意義を説明できる。			個人
4	神経学的検査法 (佐藤 4/28⑤)	脳血管撮影, 脳循環などの検査について学ぶ。 各種検査の目的と意義を説明できる。			個人
5	運動失調 (高野 5/18①)	運動失調について学ぶ。 小脳性運動失調の症状と検査法について説明できる。			個人
6	感覚障害 (高野 5/25①)	感覚障害について学ぶ。 感覚障害の原因疾患と分布の特徴が説明できる。			個人
7	神経学的検査法・意識障害, 脳死, 植物状態 (佐藤 5/26④)	神経学的検査法における各疾患の診断上の意義を学ぶ。 意識障害, 脳死, 植物状態の病態について説明できる。			個人
8	頭痛, めまい, 失神・脳神経外科領域の疾患 (佐藤 5/26⑤)	頭痛, めまい, 失神をきたす疾患と病態について学ぶ。 脳神経外科領域の疾患にみられる病態と症状について説明できる。			個人
9	記憶障害 (羽川 6/8①)	記憶の種類とメカニズム, および検査法について学ぶ。 記憶の種類とメカニズムについて説明し, 検査法を列挙できる。			個人
10	注意障害 (羽川 6/15①)	注意の要素とその障害の臨床症状, 検査法について学ぶ。 注意の要素と障害の臨床症状を説明し, 検査法を列挙できる。			個人
11	脳血管障害 ① (佐藤 6/23④)	脳卒中の病態, 治療について学ぶ。 脳卒中の病態, 治療について説明できる。			個人
12	脳血管障害 ② (佐藤 6/23⑤)	脳卒中の病態, 治療について学ぶ。 脳卒中の病態, 治療について説明できる。			個人
13	脊髄疾患の作業療法 (薄井純 6/29①)	脊髄損傷者の評価と作業療法について学ぶ。 疾患の特徴, 評価項目, 高位判定法, 機能分類を説明できる。			個人
14	脳腫瘍, 外傷性性能損傷 (佐藤 7/28④)	脳腫瘍の種類と特徴について学ぶ。 脳腫瘍の種類と特徴について説明できる。			個人
15	脊髄疾患 (佐藤 7/28⑤)	脊椎・脊髄疾患について学ぶ。 脊椎・脊髄疾患について説明できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%		
【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 (医学書院)				
【参考書】	その都度紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		3年次の中樞神経系治療学に結びつく重要な講義ですので予習して臨んでください。			
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経内科学(2/2)		佐藤 光夫 , 作業療法学科教員			一般 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
疾患の病態を理解するため、神経内科学の一般的知識を得る。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
① 疾患の病態および治療法について説明できる。 ② 各種神経学的検査法について説明できる。 ③ 代表的な疾患の理学療法について説明できる。 ④ ⑤					知識・理解
【履修上の注意】 教科書, 配布資料を持参すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	記憶・注意障害の評価とリハ (作業療法学科教員)	記憶・注意障害の検査およびリハについて学ぶ。 各障害の主な検査法とリハについて説明できる。			個人
2	末梢神経疾患・てんかん (佐藤)	末梢神経疾患・てんかんの病態について学ぶ。 末梢神経疾患・てんかんの病態を説明できる。			個人
3	感染性疾患, 廃用症候群と誤用症候群 (佐藤)	各種中枢神経感染症の特徴と治療について学ぶ。 リハにおける合併症について病態を理解する。			個人
4	末梢神経障害と作業療法 (作業療法学科教員)	代表的な末梢性ニューロパチーについて学ぶ。 末梢性ニューロパチーの症状と治療について説明できる。			個人
5	神経疾患に多い合併症と作業療法 (作業療法学科教員)	リハビリテーションにおける合併症について学ぶ。 廃用症候群と誤用症候群の病態と予防法を説明できる。			個人
6	失認の評価とリハ (作業療法学科教員)	失認の評価とリハについて学ぶ。 失認の評価とリハについて説明できる。			個人
7	認知症 (佐藤)	アルツハイマー型認知症をはじめとする各認知症について学ぶ。 各認知症の病態を説明できる。			個人
8	変性疾患・脱髄疾患 (佐藤)	変性疾患・脱髄疾患の病態と症状について学ぶ。 各疾患の病態と症状について説明できる。			個人
9	変性疾患, 脱髄疾患と作業療法 (作業療法学科教員)	変性疾患と脱髄疾患の症状とリハについて学ぶ。 代表的な疾患の症状とリハについて説明できる。			個人
10	失行・実行機能障害の評価とリハ (作業療法学科教員)	失行, 実行機能障害の評価とリハについて学ぶ。 失行, 実行機能障害の評価とリハについて説明できる。			個人
11	錐体外路の変性疾患 ① (佐藤)	パーキンソン病の病態と治療について学ぶ。 疾患の病態と治療について説明できる。			個人
12	錐体外路の変性疾患 ② (佐藤)	パーキンソニズムを来す疾患について学ぶ。 各不随意運動の特徴とメカニズムについて説明できる。			個人
13	錐体外路の変性疾患と作業療法 (作業療法学科教員)	パーキンソン病の評価と理学療法について学ぶ。 疾患の評価と理学療法およびその目的について説明できる。			個人
14	筋疾患 (作業療法学科教員)	筋ジストロフィーなどの筋疾患の病態について学ぶ。 筋疾患の病態について説明できる。			個人
15	中毒性疾患, 栄養欠乏により神経疾患, 小児神経疾患, 排尿疾患 (佐藤)	中毒, 栄養欠乏に伴う神経疾患, 小児神経疾患について学ぶ。 各疾患の病態について説明できる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%		
【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 (医学書院)				
【参考書】	その都度紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		3年次の中枢神経系治療学に結びつく重要な講義ですので予習して臨んでください。			
【本講義についての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
精神医学		柳沼 典正			一般 羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
PT、OTにおいて、精神医学を学ぶことは、必要不可欠である。精神医学全般について、総論では、歴史、症状、診断、評価を。各論では、各種精神疾患について学習していく。					
【学習目標（到達目標）】				【受講して得られる力】	
①総論では、精神医学の歴史、成因、症状、診断、評価について学習する。				知識・理解	
②各論では、それぞれの精神疾患について学習する。				専門職としてのスキル・意識	
③				論理的思考力	
④					
⑤					
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）			授業方法
1	精神医学総論1	精神障害の概念、歴史などを概観する。精神障害の成因と分類について。精神機能の障害と症状について。			個人
2	精神医学総論2	感情、意志、自我意識についてとその障害について。思考の障害、妄想について。精神状態像について。			個人
3	精神医学総論3	精神障害の診断と評価。心理検査法。			個人
4	脳器質性精神障害	認知症の定義と分類について。その他の疾患について。			個人
5	症状性精神障害	症状性精神障害の定義と主な疾患。アルコール依存症、薬物依存について。			個人
6	てんかん、統合失調症1	てんかんについて。統合失調症の概要と3タイプについて。			個人
7	統合失調症2	基本症状、診断、治療、リハビリテーション。			個人
8	気分（感情）障害	うつ病、躁うつ病の症状、治療、援助、リハビリテーション。			個人
9	神経症性障害	不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害。摂食障害、不眠症、性関連障害。			個人
10	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の各型とキャンブル依存、性同一性障害。精神遅滞、ダウン症候群を中心に。医療とリハビリテーション。			個人
11	広汎性発達障害	特異的発達障害、広汎性発達障害の医療とリハビリテーション。リエゾン精神医学・心身医学とは。ライフサイクルにおける精神医学。			個人
12	治療とリハビリテーション	精神障害の治療とリハビリテーション。薬物療法、行動療法。			個人
13	福祉、職業リハビリテーション	精神障害者の処遇の歴史。精神保健福祉法と障害者総合支援法について。ケアマネジメント。			個人
14	社会・文化とメンタルヘルス	学校のメンタルヘルス（いじめ、不登校など）。職場のメンタルヘルス。家庭のメンタルヘルス。			個人
15	最終まとめ	講義の要点について確認する			個人
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
小児科学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		田中絹代			肢体不自由児施設(作業療法士)22年勤務 田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法士として接する機会が多い小児疾患について、その病態と発達との関連を理解する。国家試験該当科目					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①母子保健・小児保健の概要について説明できる ①小児期に多い疾患・障害について説明できる ②作業療法士としての、小児疾患への関わり方を理解する。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力	
【履修上の注意】1年次の「人間発達学」の授業を関連付けて学習を進める					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	総論	作業療法士として接する機会が多い小児疾患の概要について説明できる			個人・ペア
2	小児の成長・発育と発達	小児の発達について知識を確認する			個人・ペア
3	母子保健・小児保健①	母子手帳や乳幼児健診の資料から「母子保健・小児保健の概要について理解する			グループ
4	母子保健・小児保健②	グループ内発表と質疑応答を通して、母子保健・小児保健を理解する			グループ
5	新生児・未熟児疾患①	新生児期の用語・定義と新生児期の評価について説明できる			個人・ペア
6	新生児・未熟児疾患②	新生児・未熟児の特徴を理解し、関連する疾患について説明できる			個人・ペア
7	先天異常・遺伝病	先天異常と遺伝の用語・定義について理解する 先天異常・遺伝病の特徴や関連する疾患について理解する			個人・ペア
8	神経・筋・骨疾患	小児に多い神経・筋・骨疾患の特徴や関連する疾患について理解する			個人・ペア
9	内部疾患	小児に多い内部疾患の特徴や関連する疾患について理解する			個人・ペア
10	感染症	小児に多い感染症の特徴や関連する疾患について理解する			個人・ペア
11	精神心理障害	小児の精神心理疾患・障害の特徴と関連する疾患について理解する			個人・ペア
12	小児疾患のまとめ①	作業療法士として接する機会が多い疾患の原因や症状等について調べる			グループ
13	小児疾患のまとめ②	グループ発表と質疑応答で理解を深める。			グループ
14	各発達段階の主な疾患・障害とリハビリテーションの概要	各発達段階に多い小児疾患・障害について説明できる 各発達段階でのリハビリテーションの概要について説明できる			個人・ペア
15	まとめ	小児期の基本的な疾患について説明する			個人・ペア
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 授業への貢献	80% 10%	課題の達成度 10%
【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版				
【参考書】	適時紹介します				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ発表の準備					
【本講義に関しての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
老年学		薄井 純子			一般 薄井(純)
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
老年期作業療法に必要な基礎的な内容について学習し、特に老年期において特に配慮すべき事項を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①高齢者の現状と老年期におけるリハビリテーションの役割について理解できる。 ②加齢性変化や、高齢者特有の疾病・障害を理解できる。 ③高齢者を支援するうえで必要な医療・福祉制度を理解できる。 ④ ⑤				チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】生理学・運動学・解剖学などについて確認のうえ、講義に臨むこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	老年学総論①	日本および世界における高齢者の現状と課題、リハビリの果たすべき役割、社会保障制度について理解する			個人
2	老年学総論②(認知症)	老化および加齢性変化について形態学的・生理学的に理解する			個人
3	老年症候群①	廃用症候群・フレイル・サルコペニアの状態像および機序・リスク管理・対応を理解する			個人
4	老年症候群②	意識障害・失神・めまい・せん妄の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する			個人
5	老年症候群③	低栄養・褥瘡の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する			個人
6	老年症候群④	脱水・浮腫・電解質異常の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する			個人
7	老年症候群⑤	嚥下障害の状態像および機序・リスク管理・対応を理解する			個人
8	運動器疾患	高齢者に起こりやすい骨折、転倒、歩行障害とその対応を理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
9	循環器疾患	循環期の加齢変化と留意すべき疾患について理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
10	呼吸器疾患	呼吸器の加齢性変化と留意すべき疾患(肺炎)について理解しリスク管理の具体的な方法を身につける			個人
11	消化器疾患	消化器の加齢性変化と留意すべき疾患について理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
12	神経疾患	神経系の加齢性変化と留意すべき疾患について理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
13	精神疾患	精神機能の加齢変化と留意すべき疾患について理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
14	泌尿器疾患・腎疾患	泌尿器の加齢性変化と留意すべき疾患について理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
15	皮膚疾患・感染症	皮膚および免疫系の加齢性変化と留意すべき疾患について理解し、リスク管理の具体的な方法を身につける			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 課題の達成度	80% 20%	
【教科書】	リハビリテーションリスク管理ハンドブック第4版(メジカルビュー社)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		高齢者の症状について具体的なイメージを持つこと。(観察すること)			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
薬理学		田崎 政則			一般	羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】	
作業療学科	2	後期	15(30)	講義	1	
【授業の概要・目的】						
内科的治療の柱である「薬物療法」についての基礎的知識を学ぶ。 臨床でよく用いられる代表的薬物の薬理作用を理解する。						
【学習目標（到達目標）】				【受講して得られる力】		
①臨床でよく用いられる薬物の種類とその特性がわかる ②体内における薬物動態が理解できる ③薬物による生体反応のしくみと薬物の作用機序が理解できる ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力		
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）			授業方法	
1	薬理学の基礎知識①	薬理学の概要と、薬に関する法令について理解し、説明できるようになる。			個人	
2	薬理学の基礎知識②	薬物の作用と、その効果に影響を及ぼす要因について理解する。			個人	
3	薬理学の基礎知識③	薬物の適用と、薬物体内動態について理解する。			個人	
4	薬理学の基礎知識④	薬物の副作用について理解する。			個人	
5	薬理学の基礎知識⑤	医薬品の処方箋、剤形、取扱い、計量、新薬、ジェネリック薬についての知識も修得する。			個人	
6	末梢神経作用薬	末梢神経作用薬について学ぶ。			個人	
7	中枢神経作用薬	中枢神経作用薬について学ぶ。			個人	
8	心臓血管系・血液造血系作用薬	心臓血管系・血液造血系作用薬について学ぶ。			個人	
9	呼吸器系・消化器系作用薬	呼吸器系・消化器系作用薬について学ぶ。			個人	
10	物質代謝作用薬	物質代謝作用薬について学ぶ。			個人	
11	生殖器系作用薬・オータコイド	生殖器系作用薬・オータコイドについて学ぶ。			個人	
12	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方について学ぶ。			個人	
13	生物学的製剤・診断用薬、薬物中毒	生物学的製剤・診断用薬および薬物中毒について学ぶ。			個人	
14	国家試験対策	過去の国家試験問題から病態および薬理学系の問題を抽出し解説する。			個人	
15	内容のまとめ	これまでの内容を振り返り、理解を深める。			個人	
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 系統看護学講座 専門分野					
【参考書】	「シンプル薬理学」改訂第4版 南江堂					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題を事前に提出すること。				
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
内部障害学		高野 真一			一般 高野
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、臨床において経験すると思われる代表的な疾患について正確な病態を解説し、リハビリテーション治療に応用できる知識の習得を目標とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①内部障害の特徴と支援における社会制度を理解する。 ②内部障害者の特徴とリハビリテーション(作業療法)支援の方法を理解する。 ③内部障害に対する検査データの解釈と医学的治療について理解する。 ④リハビリテーションと栄養ケアの協働について理解する。 ⑤習得した知識を用いて事例に対する病態の解釈を述べるができる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 考え抜く力	
【履修上の注意】内科学の復習が大切です。必要に応じて内科学の資料・プリントを持ち込んでください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	科目オリエンテーション	内部障害で習得する知識とその方法(事前学習動画・講義の進め方、講義後の学習)について説明できる。			個人
2	内部障害学総論	内部障害の定義、代表的な内部障害と症状、推移について説明できる。			個人
3	各論①呼吸器疾患	呼吸器に関わる解剖整理の復習、代表的な呼吸器疾患と検査データ、医学的治療について説明できる。			個人
4	各論①呼吸器疾患	呼吸器疾患に対する標準的な支援を理解し、作業療法士が実施する評価を説明することができる。			個人
5	各論②循環器疾患	循環器に関わる解剖整理の復習、代表的な循環器疾患と検査データ、医学的治療について説明できる。			個人
6	各論②循環器疾患	循環器疾患に対する標準的な支援を理解し、作業療法士が実施する評価を説明することができる。			個人
7	各論③糖尿病	糖尿病に関わる解剖整理の復習、代表的な糖尿病と検査データ、医学的治療について説明できる。			個人
8	各論③糖尿病	糖尿病に対する標準的な支援を理解し、作業療法士が実施する評価を説明することができる。			個人
9	各論④がん	がん(悪性腫瘍)の特徴、代表的ながんと検査データ、医学的治療について説明できる。			個人
10	各論④がん	がん(悪性腫瘍)に対する標準的な支援を理解し、作業療法士が実施する評価を説明することができる。			個人
11	事例学習①	事例を通じて、評価情報を用いた対象者の全体像をまとめ、説明することができる。			グループ
12	事例学習②	事例を通じて、評価情報を用いた対象者の全体像をまとめ、説明することができる。			グループ
13	リハビリテーションと栄養総論	リハビリテーション栄養の定義と背景を理解し、NSTにおける作業療法士の役割を説明できる。			個人
14	各論⑤リハビリテーション栄養ケアのプロセス	リハビリテーション栄養プロセスを理解し、必要なアセスメント(評価、診断推論)について説明することができる。			個人
15	事例学習③	事例を通じて、評価情報を用いた対象者の全体像をまとめ、説明することができる。			個人
期末試験	期末試験	評価方法	小テスト 受講態度	30% 20%	筆記試験 50%
【教科書】	上杉 監:PT・OT入門 イラストで分かる内部障害(医歯薬出版) 浅野 編:なるほどなっとく内科学 改訂第2版(南山堂)				
【参考書】	メディカルスタッフのための内科学 第4版(医学出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		事前学習動画とワークシートを用います。復習にも活用してください。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
疾病と障害の成り立ち		吉田 久美			一般 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法治療学において、内科学・整形外科学・神経内科学・精神医学・病理学・薬理学といった臨床医学の知識を活用できるように整理できる。疾患・障害の構造について神経・解剖・運動・生理学的な側面での理解ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①臨床医学的な基本的知識を系統立てて説明できる。 ②疾病と障害の成り立ちについて生理学的に説明できる。 ③疾病と障害の成り立ちについて神経学的に説明できる。 ④疾病と障害の成り立ちについて解剖学的・運動学的に説明できる。 ⑤疾病・障害を対象とする上での留意点(リスク管理)を理解できる。				知識・理解 情報活用能力	
【履修上の注意】本講義はモジュール型講義です。内科学・整形外科学・神経内科学・精神医学の資料を持参してください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	講義ガイダンス	講義の進め方が理解できる。講義での効果的な知識整理の方法および確認の方法が理解できる。			個人
2	内科学:呼吸器系疾患・消化器疾患	呼吸器系疾患(慢性閉塞性肺疾患・肺炎等)、消化器疾患(腸閉塞・肝炎等)の知識を整理し要点を説明できる。			個人
3	内科学:循環器系疾患・消化器疾患	循環器系疾患(虚血性心疾患等)、消化器疾患(クローン病等)について知識を整理し要点を説明できる。			個人
4	内科学:内分泌系疾患・代謝系疾患	内分泌系疾患(Basedow病等)、代謝系疾患(糖尿病)について知識を整理し要点を説明できる。			個人
5	内科学:血液疾患・腎泌尿器系疾患	腎疾患(腎不全など)、血液疾患(血友病・白血病等)について知識を整理し要点を説明できる。			個人
6	整形外科学:変形性関節症・慢性関節リウマチ	変形性関節症、慢性関節リウマチについて機序・症状・重症度など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
7	整形外科学:末梢神経障害	末梢神経障害(絞扼性神経障害、腕神経叢麻痺等)の機序・症状など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
8	整形外科学:骨折	骨折(上肢・下肢・骨盤等)について機序・症状・合併症など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
9	神経内科学:脳腫瘍	脳腫瘍について機序・症状・好発部位・種類など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
10	神経内科学:頭部外傷	頭部外傷について機序・症状・好発部位・種類など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
11	神経内科学:変性疾患・脱髄疾患	変性疾患(PD・SCDなど)・脱髄疾患(GBSなど)の機序・症状・分類など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
12	神経内科学:筋疾患	神経筋接合部の疾患(筋ジストロフィー等)について機序・症状・重症度など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
13	精神医学:統合失調症、気分障害	統合失調症や気分障害について機序・症状・薬物療法など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
14	精神医学:神経症、パーソナリティ障害	神経症やパーソナリティ障害について機序・症状・薬物療法など基礎知識を整理し要点を説明できる。			個人
15	講義のまとめ	講義で確認した基本的知識の振り返りができる。理解が不足している部分について改めて確認し説明ができる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 筆記試験	50% 50%	
【教科書】	内科学・整形外科学・神経内科学・精神医学・病理学・薬理学で使用する教科書を講義内容に合わせて使用しますので持参してください。				
【参考書】	講義時に紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		毎回ミニテストを実施しますので必ず自宅学習をして臨むようにしてください。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

3. 専門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
応用作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸		病院(作業療法士)7年勤務	羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
基礎作業療法学で学んだ作業活動だけでなく、治療構造・関わり方の枠組みや意味を理解する。自己の治療的利用を含め、作業療法士としてどういった意図で関わるかについても理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①治療構造とその効果について説明できる。 ②自己の治療的利用のため、自己の特徴とその活かし方を説明できる。 ③対象者の身体的、心理的状态に配慮した環境設定について説明できる。 ④ ⑤				チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	基礎作業療法学の振り返り	作業療法士が作業をどのように活用するか、作業と健康がどのように関係するかを復習する。			個人・グループ
2	切り絵	切り絵活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人・グループ
3	切り絵	切り絵活動を通して、作業の工程を理解、習熟し、作業分析まで理解する。			個人・グループ
4	作業活動 陶芸1	その作業活動の作業の特性について説明できる。			個人・グループ
5	作業活動 陶芸2	その作業活動の作業の特性を理解し、作業の行程表を作成できる。			個人・グループ
6	作業活動 陶芸3	作業の実施、ペア演習 自身の計画に則り相手に作業を実施してもらうことができる			個人・グループ
7	作業活動 陶芸4	作業の実施、ペア演習 自身の計画に則り相手に作業を実施してもらうことができる			個人・グループ
8	作業の可能化	作業の可能化に向けた作業分析の応用について理解できる。			個人・グループ
9	作業の可能化に向けた支援1	その作業活動の作業の特性について説明できる。			個人・グループ
10	作業の可能化に向けた支援2	その作業活動の作業の特性を理解し、作業の行程表を作成できる。			個人・グループ
11	作業の可能化に向けた支援3	作業の実施、ペア演習 自身の計画に則り相手に作業を実施してもらうことができる			個人・グループ
12	作業の可能化に向けた支援4	作業の実施、ペア演習 自身の計画に則り相手に作業を実施してもらうことができる			個人・グループ
13	作業の可能化 発表	作業活動の文脈、方法、作業分析、実施についてまとめ報告できる。			個人・グループ
14	感覚運動遊び1	作業の特性を理解し、感覚運動遊び(触覚系のあそび)を安全に実施できる。			個人・グループ
15	感覚運動遊び2	作業活動実施に関する計画・記録について理解し、感覚運動遊び(前庭系・固有受容系のあそび)を計画・実施できる。			個人・グループ
期末試験	レポート	評価方法	レポート	100%	
【教科書】	作業療法実践の理論 医学書院 作業活動実習マニュアル 第2版 医歯薬出版				
【参考書】	作業で語る事例報告 医学書院				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
応用作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			病院(作業療法士)7年勤務 羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
より実践的な作業療法を理解するために、作業療法の理論を理解し、対象者にどのような実践モデルが適応できるか、専門家と対象者でどのように目標設定していくかを理解する。また、事例を元に臨床家がどのように思考を整理しているか事例から学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法の代表的な理論について説明できる。 ②作業療法のパラダイム、概念的実践モデル、関連知識の階層を説明できる。 ③対象者に応じた概念的実践モデルの選択について説明できる。(2種類以上) ④対象者の状況に応じて、介入の方向性(回復・代償・習得・教育)の選択について説明できる。 ⑤多様なクリニカルリーズニングだけでなく、対象者と協働意思決定するSDMIについて説明できる。				チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法の近代史	作業パラダイムから機械論パラダイム、そして作業パラダイムへの回帰について理解する。			個人・グループ
2	作業療法の理論 1	現在の作業療法の2大理論について理解する。			個人・グループ
3	作業療法の理論 2	現在の作業療法の2大理論について理解する。			個人・グループ
4	作業的存在としての作業歴	本質主義と社会構成主義について理解する。 作業的存在としての作業歴の重要性を理解する。			個人・グループ
5	概念的実践モデル 1	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する。			個人・グループ
6	概念的実践モデル 2	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する。			個人・グループ
7	概念的実践モデル 3	作業療法で用いられる概念的実践モデルの概念と、評価・介入の視点について理解する。			個人・グループ
8	クリニカルリーズニングとSDM	対象者を複数の視座からクリニカルリーズニング(臨床推論)を行い、専門家と対象者で協働で目標決定することを理解する。			個人・グループ
9	概念的実践モデルと実践 1	概念的実践モデルとそれに基づいた実践について、事例を元に理解する。			個人・グループ
10	概念的実践モデルと実践 2	概念的実践モデルとそれに基づいた実践について、事例を元に理解する。			個人・グループ
11	概念的実践モデルと実践 3	概念的実践モデルとそれに基づいた実践について、事例を元に理解する。			個人・グループ
12	概念的実践モデルと実践 4	概念的実践モデルとそれに基づいた実践について、事例を元に理解する。			個人・グループ
13	概念的実践モデルと実践 5	概念的実践モデルとそれに基づいた実践について、事例を元に理解する。			個人・グループ
14	生活行為向上マネジメント 1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念と使い方を理解し、演習にて情報を整理する。			個人・グループ
15	生活行為向上マネジメント 2	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概念と使い方を理解し、演習にて情報を整理する。			個人・グループ
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	作業療法実践の理論 医学書院				
【参考書】	作業で語る事例報告 医学書院				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		配布された予習課題に取り組むようにしてください。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法演習Ⅲ ※ 実務経験のある教員の授業科目		吉田 久美		病院(作業療法士)13年勤務	吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
デイサービスや放課後等デイサービス、地域活動支援センターでの体験演習を通して、臨地実習で必要とされる企画力・計画性・コミュニケーション技術・協調性を身に付けることができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①社会人として必要な挨拶・報連相・話し合っ折り返し力などコミュニケーション力を身に付ける。 ②自らがレクリエーションや遊びを企画し、実践までの準備を計画的に行うことができる。 ③実践で得られた経験を基に自ら獲得すべき能力を自覚して改善のための行動計画を立案できる。 ④1人1人が自主性・積極性をもった行動ができ、他者と協力して目標を達成することができる。 ⑤障害を持った方が望むサポート・望まないサポートを理解することができる。				コミュニケーションスキル 問題解決力 態度・志向性	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	演習に関するガイダンス 吉田	作業療法演習Ⅲの到達目標を理解し説明できる。社会人基礎力をチェックし自己理解を深め目標を設定できる。			グループ
2	体験演習に必要な準備① 吉田	体験演習を実践する施設について設置目的・対象者・特徴などについて調べ体験演習の準備をすることができる。			グループ
3	体験演習に必要な準備② 吉田	体験演習で実践する遊びやレクリエーション、集団活動の構造を理解し、グループで組み立てることができる。			グループ
4	体験演習に必要な準備③ 吉田	体験演習で実践する遊びやレクリエーション、集団活動の内容について指摘された内容を反映させて修正できる。			グループ
5	事前演習① 吉田・薄井・薄井	学内で体験演習で企画した内容を実践します。フィードバックを基に修正し、実践場面への準備性を高められる。			グループ
6	事前演習② 吉田・薄井・薄井	学内で体験演習で企画した内容を実践します。フィードバックを基に修正し、実践場面への準備性を高められる。			グループ
7	事前演習③ 吉田・薄井・薄井	学内で体験演習で企画した内容を実践します。フィードバックを基に修正し、実践場面への準備性を高められる。			グループ
8	事前演習④ 吉田・薄井・薄井	学内で体験演習で企画した内容を実践します。フィードバックを基に修正し、実践場面への準備性を高められる。			グループ
9	体験演習① 吉田・薄井・薄井	企画した内容を実践します。実践課程で得られた体験を振り返り、目標の達成度合いを説明することができる。			グループ
10	体験演習② 吉田・薄井・薄井	企画した内容を実践します。実践課程で得られた体験を振り返り、目標の達成度合いを説明することができる。			グループ
11	体験演習③ 吉田・薄井・薄井	企画した内容を実践します。実践課程で得られた体験を振り返り、目標の達成度合いを説明することができる。			グループ
12	体験演習④ 吉田・薄井・薄井	企画した内容を実践します。実践課程で得られた体験を振り返り、目標の達成度合いを説明することができる。			グループ
13	体験演習のまとめ 吉田・薄井・薄井	演習で得られた体験を説明でき、明らかになった課題について理解を深め、改善のため行動計画を説明できる。			グループ
14	当事者との交流会① 吉田	当事者の視点から必要な支援、不必要な支援を学び、障害を持つ方への理解を深めることができる。			グループ
15	当事者との交流会② 吉田	当事者の視点から必要な支援、不必要な支援を学び、障害を持つ方への理解を深めることができる。			グループ
期末試験		評価方法	受講態度 10% 授業への貢献 30%	発表会の結果 30% レポート 30%	
【教科書】	講義の際に随時紹介します。				
【参考書】	講義の際に随時紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		企画した遊びやレクリエーションの準備を体験演習前に行う必要があります。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法研究法 I ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			病院(作業療法士)7年勤務 羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
研究とは未だ明らかになっていない新しい知見を生み出す知的作業である。「巨人の肩の上に立つ」という言葉の通り、先人の知恵を元に新たな知見を求めていくが、そこには研究における作法が存在し、基本的な研究のプロセスについて学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①研究について、研究のプロセスを説明できる。 ②良い研究の種類、研究の種類について説明できる。 ③研究の構造(PICO・PECO)について説明できる。 ④研究計画の立て方を説明できる。 ⑤研究倫理の重要性を説明できる。				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	研究とは	研究と学習の違いについて理解する。 代表的な研究方法について理解する。			個人・グループ
2	良い研究の条件・研究の種類	研究の意義、新規性、実現可能性について理解する。 研究フェーズの遅いなど研究の種類を理解する。			個人・グループ
3	研究デザイン 1	研究テーマの大きさと階層構造を理解する。 初心者に合わせて研究テーマの育て方を理解する。			個人・グループ
4	研究デザイン 2	PICOをはじめとするフレームワークを理解する。 研究デザインごとの特徴について理解する。			個人・グループ
5	論文の読み方 1	良い研究計画について理解する。 論文の構成について理解する。			個人・グループ
6	論文の読み方 2	文献のレビューとその段階について理解する。 背景の重要性、結果からの解釈の範囲について理解する。			個人・グループ
7	量的研究質的研究	量的研究で用いる数値の種類と分析手法について理解する。 質的研究で用いる文章記録と分析手法について理解する。			個人・グループ
8	信頼性と妥当性のある評価尺度	信頼性と妥当性の意味を理解する。 使用できる評価尺度にはどのようなものがあるか理解する。			個人・グループ
9	研究倫理規定	ヘルシンキ宣言と人を対象とする研究の倫理原則を理解する。 COIの開示、倫理審査と倫理の歴史について理解する。			個人・グループ
10	研究計画の立て方	研究計画書(プロトコル)の構成について理解する。 目的、研究種類、対象、エンドポイントなどを理解する。			個人・グループ
11	研究テーマと計画 1	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する。			個人・グループ
12	研究テーマと計画 2	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する。			個人・グループ
13	研究テーマと計画 3	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する。			個人・グループ
14	研究テーマと計画 4	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する。			個人・グループ
15	研究テーマと計画 5	各担当教員と研究テーマを立て、研究計画を理解する。			個人・グループ
期末試験	なし	評価方法	授業への貢献 50%	受講態度 50%	
【教科書】	研究の育て方 医学書院				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題を事前に提出すること。			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学 I ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸			病院(作業療法士)7年勤務 羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法評価学 I では、主に精神科領域の知識のほか、評価の基本となる観察と面接を中心に学習を行う。観察や面接は定性的評価であり、恣意的な解釈になりやすいが、適切に用いられれば細かな情報を得ることができ、本講義では評価のポイントを学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①精神障害者と精神医療の変遷について説明できる。 ②精神科リハビリテーションがどのように行われているか説明できる。 ③日本と世界の精神医療について説明できる。 ④作業療法の効果について限界を含めて説明できる。 ⑤評価の核である面接と観察を理解し、実施できる。				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション 羽川	授業の進め方、評価、課題についてのオリエンテーション。一般社会の偏見ではなく、精神障害の真実を理解する。			個人
2	精神障害施策と歴史 羽川	精神障害者施策と精神障害の治療の歴史を理解する。これまでの精神障害の差別と人権について理解する。			個人
3	精神科リハビリテーション 羽川	これまで行われてきた精神科リハビリテーションを理解する。			個人
4	精神科医療の役割 羽川	精神医療に関連する職種やチームのあり方について理解する。			個人
5	世界の精神科医療 羽川	イタリアのバザリア法から日本の精神医療の現状を理解する。			個人
6	これからの精神科医療 羽川	リカバリー、スエンパワメント、ストレングスについて理解する。来談者中心療法とクライエント中心の作業療法について理解する。			個人
7	精神科作業療法① 羽川	精神科領域での作業療法士の職域を理解する。入院者を対象とする精神科作業療法について理解する。			個人
8	精神科作業療法② 羽川	通院者を対象とする精神科デイケアを理解する。地域生活を支える福祉サービスについて理解する。			個人
9	精神科作業療法の効果 吉田	精神科作業療法がもたらす効果と限界について理解する。精神科領域における作業療法士の役割を理解する。			個人
10	統合失調症の医学的・心理的理解 吉田	統合失調症の障害特性を理解し、評価の視点を理解する。当事者の視点でどのような体験をしているかを理解する。			個人
11	精神科作業療法の評価 1 吉田	精神科作業療法の概要について理解する。情報収集、観察、面接、検査、尺度の意義を理解する。			個人
12	精神科作業療法の評価 2 吉田	情報(一般情報・医学的情報)の内容と解釈について理解する。情報収集の整理の仕方について理解する。			個人
13	精神科作業療法の評価 3 吉田	観察の種類や使い方、特徴について理解する。観察の視点を学び、実施、解釈することについて理解する。			個人
14	精神科作業療法の評価 4 吉田	面接の種類や使い方、特徴について理解する。COPMを使った面接を理解する。			個人
15	精神科作業療法の評価 5 吉田	検査や評価尺度の種類、内容、利用方法について理解する。客観的評価と主観的評価の双方の意味について理解する。			個人
期末試験	前記期末試験	評価方法	筆記試験 レポート	80% 20%	
【教科書】	精神科病院を出て、町へ／精神障害と作業療法 新版／生活を支援する精神障害作業療法 第2版				
【参考書】	図説 精神障害リハビリテーション				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題を事前に提出すること。			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅱ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介			病院(作業療法士)11年勤務 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	前期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①検査、測定の意味、方法、結果の解釈に必要な知識を習得する。 ②検査、測定の方法を理解、説明できる。 ③検査、測定の方法を身につけ、模擬的に実施できる。 ④疾患に対して適切な評価項目を列挙することができる。 ⑤				考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【履修上の注意】		実習室を使用する際は実習着を着用する。毎回、確認して準備すること。			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法と評価	作業療法における評価の意味や目的を理解し、説明できるようになる。			個人
2	作業療法評価の流れ	評価の時期、ICFに則した評価項目、評価のまとめから問題点の抽出、治療計画立案までの流れを理解する。			個人
3	評価結果の記録と報告	評価内容の記録と報告の重要性について、その意味と特徴を理解し、模擬的に実施できるようになる。			個人
4	面接、観察による評価	評価における面接の技法、観察からの評価の重要性について理解し、模擬的に実施できるようになる。			個人
5	徒手筋力検査(MMT)①	筋力検査の意味や目的を理解し、検査方法の基礎を説明できるようになる。			個人
6	徒手筋力検査(MMT)②上肢	MMTの方法と手順を理解して、上肢のMMTを模擬的に実施できるようになる。			グループ
7	徒手筋力検査(MMT)③下肢	MMTの方法と手順を理解して、下肢のMMTを模擬的に実施できるようになる。			グループ
8	徒手筋力検査(MMT)④体幹・その他	MMTの方法と手順を理解して、体幹およびその他のMMTを模擬的に実施できるようになる。			グループ
9	徒手筋力検査(MMT)の確認①	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる。			個人
10	徒手筋力検査(MMT)の確認②	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した筋力検査が行えるようになる。			個人
11	形態計測①	形態計測の意味について学び、形態計測を実施するためのランドマークを触診できるようになる。			グループ
12	形態計測②	上肢長、下肢長の計測を行い、正確に計測できるようになる。			グループ
13	形態計測③	周径の計測を行い、正確に計測できるようになる。			グループ
14	形態計測の確認①	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した形態計測が行えるようになる。			個人
15	形態計測の確認②	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した形態計測が行えるようになる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50%	実技試験 50%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学第3版(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)				
【参考書】	講義の中で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】		次回講義の内容について、評価学の教科書に目を通しておくこと。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
作業療法評価学Ⅱ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介		病院(作業療法士)11年勤務	薄井	
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
作業療法学	2	前期	30(60)	講義・演習	2	
【授業の概要・目的】						
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。						
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】		
①検査、測定の意味、方法、結果の解釈に必要な知識を習得する。 ②検査、測定の方法を理解、説明できる。 ③検査、測定の方法を身につけ、模擬的に実施できる。 ④疾患に対して適切な評価項目を列挙することができる。 ⑤				考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性		
【履修上の注意】		実習室を使用する際は実習着を着用する。毎回、確認して準備すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法	
1	意識障害の評価	意識障害の特徴を理解し、評価方法を習得する。			グループ	
2	バイタルサインの評価	バイタルサインを確認することの重要性を理解し、実践できるようになる。			グループ	
3	知覚の評価①	知覚の評価を行う意義について学び、表在感覚および深部感覚の評価方法を理解、説明できるようになる。			個人	
4	知覚の評価②	表在感覚の検査を模擬的に行い、正確に実施できるようになる。			グループ	
5	知覚の評価③	深部感覚の検査を模擬的に行い、正確に実施できるようになる。			グループ	
6	知覚検査の確認①	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した知覚検査が行えるようになる。			個人	
7	知覚検査の確認①	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した知覚検査が行えるようになる。			個人	
8	関節可動域の評価①	関節可動域の評価を行う意義について学び、関節可動域の評価方法を理解、説明できるようになる。			個人	
9	関節可動域の評価②	上肢を中心に関節可動域の評価を模擬的に行い、正確に実施できるようになる			グループ	
10	関節可動域の評価③	下肢を中心に関節可動域の評価を模擬的に行い、正確に実施できるようになる			グループ	
11	関節可動域測定の確認①	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる。			個人	
12	関節可動域測定の確認②	模擬患者を対象として、被験者の情報に適した関節可動域測定が行えるようになる。			個人	
13	反射検査①	反射検査の意義について学び、反射検査を正確に実施できるようになる。			グループ	
14	反射検査②	反射検査の意義について学び、反射検査を正確に実施できるようになる。			グループ	
15	筋緊張検査	筋緊張検査の意義について学び、反射検査を正確に実施できるようになる。			グループ	
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	50%	実技試験	50%
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学第3版(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版) ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)					
【参考書】	講義の中で紹介する。					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		次回講義の内容について、評価学の教科書に目を通しておくこと。				
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅲ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井純子 ¹⁾ 、羽川孝幸 ²⁾			羽川 <small>1)病院(作業療法士)6年勤務 2)病院(作業療法士)7年勤務</small>
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	後期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 検査、測定の意味・方法・結果の解釈に必要な知識を習得する。 ② 検査・測定の方法を理解する。 ③ 検査・測定の技術を身につける。 ④ 疾患に対する評価項目を列挙することができる。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	後期のオリエンテーション 薄井(純)	前期の復習、作業療法における評価の概要を説明することができる。実技試験のオリエンテーションを含める。			ペア・グループ
2	関節可動域測定 薄井(純)	関節可動域測定方法について理解を深め、被検者に合わせた方法・準備を説明できる。			ペア・グループ
3	脳神経検査① 薄井(純)	脳神経系の機能、障害像について理解し、各症状について説明できる。(Key word: 脳神経Ⅰ～Ⅵ, 生活上の問題)			ペア・グループ
4	脳神経検査② 薄井(純)	各検査方法について理解し、説明できる。(Key word: 脳神経Ⅶ～Ⅻ, 生活上の問題)			ペア・グループ
5	摂食、嚥下の評価・検査 薄井(純)	摂食、嚥下機能、各々に障害をきたす要因を理解し、各検査方法について説明できる。(Key word: 嚥下の過程, 機能と障害像)			ペア・グループ
6	摂食、嚥下の評価・検査 薄井(純)	摂食、嚥下機能、各々に障害をきたす要因を理解し、各検査方法について説明できる。(Key word: 摂食・嚥下評価, 検査)			ペア・グループ
7	片麻痺機能検査 薄井(純)	各種片麻痺機能テストを理解し、実施方法を説明できる。(Key word: BRS, 上田式, WMFT)			ペア・グループ
8	片麻痺機能検査 薄井(純)	各種片麻痺機能テストを理解し、実施方法を説明できる。(Key word: FMA, SIAS, MAL, MFT)			ペア・グループ
9	上肢機能検査① 薄井(純)	各種上肢機能テストを理解し、実施方法を説明できる。(Key word: 握力, ピンチ力, リーチ検査)			ペア・グループ
10	上肢機能検査② 薄井(純)	各種上肢機能テストを理解し、実施方法を説明できる。(Key word: STEF, DASH, バーデューペグボード)			ペア・グループ
11	協調性検査 薄井(純)	協調性異常の発生機序について理解し、機能評価の方法について説明できる。(Key word: 協調性障害, 運動検査, 机上検査)			ペア・グループ
12	姿勢反射検査 薄井(純)	姿勢の捉え方、姿勢維持の機序を理解し、バランス評価の方法について説明できる。(Key word: 緊張性姿勢, 立ち直り反応, 平衡反応)			ペア・グループ
13	ADLの評価 薄井(純)	人の生活、活動の捉え方について理解し、種々の活動評価の手段について説明できる。(Key word: B.I., FIM, 寝たきり度, 認知症自立度, FAI)			ペア・グループ
14	実技試験① 薄井(純)	被験者情報に適した測定が実施できる。			個人
15	高次神経障害 薄井(純)	高次脳機能の各障害像を理解し、症状に合わせた評価法の選択を説明できる。(Key word: TMT, 仮名ひろいテスト, RBMT)			ペア・グループ
期末試験	後期試験	評価方法	筆記試験 70%	実技試験 30%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第8版(協同医書出版)、ベッドサイドの神経の診かた 第17版(南山堂)				
【参考書】	逐次、講義の中で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法評価学Ⅲ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井純子 ¹⁾ 、羽川孝幸 ²⁾			1)病院(作業療法士)6年勤務 2)病院(作業療法士)7年勤務 羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	2	後期	30(60)	講義・演習	2
【授業の概要・目的】					
作業療法で用いられる代表的な評価法の基礎技法を習得し、作業療法治療学への応用に用いるための基礎を学習する。各検査・測定法についての実技形式を中心とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
① 検査、測定の意味・方法・結果の解釈に必要な知識を習得する。 ② 検査・測定の方法を理解する。 ③ 検査・測定の技術を身につける。 ④ 疾患に対する標準的な評価項目を列挙することができる。				考え抜く力 チームで働く力 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	高次神経障害 (薄井純)		高次脳機能の各障害像を理解し、症状に合わせた評価法の選択を説明できる。(Key word: BIT, WCST, FAB, Kohs)		ペア・グループ
2	実技試験② (薄井純)		被験者情報に適した測定が実施できる。		個人
3	事例学習 (薄井純)		グループワーク。疾患の特徴を理解し、必要評価項目を列挙することができる。		個人
4	事例学習 (薄井純)		グループワーク。疾患の特徴を理解し、必要評価項目を列挙することができる。		個人
5	事例学習 (薄井純)		グループワーク。疾患の特徴を理解し、必要評価項目を列挙することができる。		個人
6	精神科領域の評価 1 羽川		実際に代表的な検査を実施し、精神科の評価を体験し、理解する		個人
7	精神科領域の評価 2 羽川		精神科領域の評価の意義について理解する		個人
8	精神科領域の評価 3 羽川		知的機能の評価 WAIS-Ⅲの構成と評価方法について理解する		個人
9	精神科領域の評価 4 羽川		精神症状の評価 BPRS,PANSS,SAPS,SANSについて理解する		個人
10	精神科領域の評価 5 羽川		社会生活の評価① Rehabについて理解する		個人
11	精神科領域の評価 6 羽川		社会生活の評価② LASMIとGAFについて理解する		個人
12	精神科領域の評価 7 羽川		パーソナリティ評価、その他 各種心理検査などについて理解する		個人
13	精神科領域の評価 8 羽川		パーソナリティ評価、その他 各種心理検査などについて理解する		個人
14	記録報告 1 羽川		個人情報保護について理解し、記録の仕方を理解する		個人
15	記録報告 2 羽川		SOAP+Iの形式での記録について理解する		個人
期末試験	後期試験		評価方法	筆記試験 70% 実技試験 30%	
【教科書】	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院)、新・徒手筋力検査法 原著第8版(協同医書出版)、ベッドサイドの神経の診かた 第17版(南山堂)				
【参考書】	逐次、講義の中で紹介する。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	担当教員		【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術論(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介		病院(作業療法士)11年勤務	薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
障害をもつ人々が主体的に生活できる手段を提供するため、身体機能・精神機能の理解と障害像のイメージを獲得し、ADL能力向上のための基礎知識を得ることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日常生活活動の項目について理解を深める。疾患と結び付けることができる。 ②日常生活活動の評価について理解し、評価方法の基本を身に付ける。 ③日常生活活動の各項目と障害像を結び付けることができるようになる。 ④ICFの「活動と参加」について理解を深める。 ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 論理的思考力	
【履修上の注意】演習では実習着を使用する。演習では準備物があるので、確認を怠らないこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	オリエンテーション		日常生活活動の概念と種類、「日常生活」、「家庭生活」、「社会生活」について理解する。		個人
2	日常生活活動とICF		ICFの概念について、特に「生活機能」と「個人因子」、「背景因子」の相互作用について理解を深める。		個人
3	日常生活活動の評価①		「量的評価」と「質的評価」、「できるADL」と「しているADL」の違いについて理解する。		個人
4	日常生活活動の評価②		量的評価として、BIとFIMを中心に概要と評価方法について理解する。		個人
5	日常生活活動の評価③		質的評価として、動作分析の基礎を学ぶ。		個人
6	ADL各論①		脳血管障害を例に、「起居、移乗、移動」動作の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
7	ADL各論②		脳血管障害を例に、「起居、移乗、移動」動作の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
8	ADL各論③		脳血管障害を例に、「食事」動作の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
9	ADL各論④		脳血管障害を例に、「排せつ」動作の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
10	ADL各論⑤		脳血管障害を例に、「更衣」動作の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
11	ADL各論⑤		脳血管障害を例に、「整容」動作の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
12	ADL各論⑥		脳血管障害を例に、「コミュニケーション」の概念や特徴を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		個人
13	ADL各論⑦		「精神障害」患者の、日常生活活動、日常生活関連活動の困難さについて理解する。		個人
14	ADL各論⑧		「調理」活動を例にして、家事動作の特徴や重要性を理解し、遂行に必要な機能について理解する。		グループ
15	自助具と生活支援機器		自助具や補装具、生活支援機器について、自助具の作成を通して理解を深める。		グループ
期末試験	筆記試験 グループ活動の課題提出		評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%	
【教科書】		PT・OTビジュアルテキスト ADL (羊土社)			
【参考書】		1年次に購入した図書から、講義の中で指定する。 資料を配布もしくは紹介する場合がある。			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】復習を怠らないこと。次回講義内容について、各自予習復習を行うこと。					
【本講義についての質問先】		【質問方法】			

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日常生活技術論(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介			病院(作業療法士)11年勤務 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	2	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
前期の授業で得られた各行為の基礎知識を基に、各疾患の特徴と日常生活活動上の不自由さを結び付け、具体的な動作や治療法の基礎を身につけることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日常生活活動の各項目の知識と、疾患の特徴や病態像を結び付けることができる。 ②日常生活活動の評価について、演習を通して理解を深める。 ③日常生活活動への具体的な援助方法の基礎を身につける。 ④ ⑤				チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】演習では実習着を使用する。演習では準備物があるので、確認を怠らないこと。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ADL評価法の確認①		脳血管障害の症例検討を行い、BI・FIMの採点について確認する。		個人
2	ADL評価法の確認②		脳血管障害の症例検討を行い、BI・FIMの採点についてグループで検討する。		グループ
3	脊髄損傷のADL①		脊髄損傷の病態像を理解し、損傷高位別の残存機能を活用した動作の獲得について理解する。		グループ
4	脊髄損傷のADL②		四肢麻痺患者の移動を中心に演習を行い、損傷高位に合わせた動作の獲得と訓練について具体的方法を学ぶ。		グループ
5	パーキンソン病のADL①		パーキンソン病の病態像について確認し、歩行を中心にその特徴と具体的な訓練方法について学ぶ。		グループ
6	パーキンソン病のADL②		パーキンソン病患者の歩行以外の諸活動について、その特徴と具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
7	神経筋疾患のADL①		神経内科における諸疾患のADL上の特徴を理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
8	神経筋疾患のADL②		神経内科における諸疾患のADL上の特徴を理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
9	認知症・統合失調症のADL		認知症および統合失調症患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援などについて学ぶ。		グループ
10	呼吸器疾患・心疾患のADL		呼吸器疾患および心疾患患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
11	関節リウマチのADL①		関節リウマチ患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
12	関節リウマチのADL②		関節リウマチ患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
13	人工股関節置換術後のADL		人工股関節置換術を施行された患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。		グループ
14	切断患者のADL		四肢の切断患者のADL上の特徴について理解し、義手や義足の役割やADLの工夫などについて理解する。		グループ
15	各疾患の特徴の確認		講義で扱った各疾患のADLの特性についてまとめ、理解を深める。		グループ
期末試験	筆記試験 グループ活動での課題の遂行度		評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%	
【教科書】		PT・OTビジュアルテキスト ADL (羊土社)			
【参考書】		1年次に購入した図書から、講義の中で指定する。 資料を配布もしくは紹介する場合がある。			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】復習を怠らないこと。次回講義内容について、各自予習復習を行うこと。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
レクリエーション(選択必修) ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介 ¹⁾ /薄井 純子			1)病院(作業療法士)11年勤務 薄井
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法の幅広い対象領域・対象者に対してレクリエーションは有効な治療手段であることを理解し、計画・実践能力を身に付けることを目的とする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①体操やレクリエーションの持つ治療的意義を理解する。 ②対象領域・対象者に適切な体操やレクリエーションを考案できる。 ③対象領域・対象者に適切な体操やレクリエーションを提供できる。 ④適切な振り返りと修正を行い、次の活動につなげることができる。 ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験	
【履修上の注意】グループ活動には積極的に参加すること。対象者への接遇に配慮すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	治療的レクリエーションとは	治療的レクリエーションの基本的な考え方を学び、「楽しみ」や「集団」について理解する。			グループ
2	レクリエーションの範囲と対象	対象者や集団の違い、その特徴に応じたレク立案から実践までの流れについて理解する。			グループ
3	レクリエーション計画の実際①	グループ編成を行い、身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。			グループ
4	レクリエーション計画の実際②	グループ編成を行い、身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。			グループ
5	レクリエーション計画の実際③	計画・立案した内容に沿った模擬演習を行い、流れの確認や改善点について話し合い、修正する。			グループ
6	レクリエーション計画の実際④	計画・立案した内容に沿った模擬演習を行い、流れの確認や改善点について話し合い、修正する。			グループ
7	レクリエーションの実践①	実際の活動に参加し、対象者の身体・精神機能を把握して、グループの計画に反映させる。			グループ
8	レクリエーションの実践②	実際の活動に参加し、対象者の身体・精神機能を把握して、グループの計画に反映させる。			グループ
9	レクリエーション計画の実際⑤	グループが中心となって活動するための最終調整を行う。			グループ
10	レクリエーションの実践③	グループで企画したレクリエーションを実践する。			グループ
11	レクリエーションの実践④	グループで企画したレクリエーションを実践する。			グループ
12	レクリエーションの振り返り	グループで実践したレクリエーションを振り返り、修正・改善すべき点を考え、計画の見直しを行い、確認する。			グループ
13	レクリエーション計画の実際⑥	グループ編成を行い、身体機能以外の要素を目的とするレクリエーションを計画・立案する。			グループ
14	レクリエーション計画の実際⑦	計画したレクリエーションの模擬練習を行い、目的に沿った活動になるよう修正を図る。			グループ
15	レクリエーションの実践⑤	グループで計画したレクリエーションを実践し、まとめを行う。			グループ
期末試験	計画から振り返りまで、活動を総合的に評価する	評価方法	課題の達成度	100%	
【教科書】	特に定めない。				
【参考書】	特に定めない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】身体・精神機能の知識を整理して、計画に反映させること。					
【本講義についての質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害者スポーツ(選択必修) ※ 実務経験のある教員の授業科目		羽川 孝幸		福島県障害者スポーツ指導者協議会所属5年	羽川
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
障がい者スポーツは様々な種目があり、生涯スポーツから競技スポーツまで存在する。スポーツを通じたノーマライゼーションや社会参加について考え、リハビリテーション専門職として障がい者スポーツに貢献する意義を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①障がい者スポーツの知識とその必要性について説明できる。 ②スポーツをリハビリテーションの観点から「治療的意味」について説明できる。 ③スポーツをノーマライゼーションの観点から「社会参加の意味」について説明できる。 ④スポーツをQOLの観点から「楽しみとしての意味」について説明できる。 ⑤障がい者スポーツにリハビリテーション専門職の関わる価値について説明できる。				前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	障がい者スポーツの意義と理念	障害者スポーツの意義、その効果について理解する。			個人・グループ
2	障害者福祉施策と障がい者スポーツ	障害者福祉施策の体系と、障害者スポーツとの関連について学習する。			個人・グループ
3	障がい者スポーツ大会の概要 障がい者スポーツ指導員制度	全国で開催される大会、およびパラリンピックなどについて知る。公認スポーツ指導者の制度と役割を理解する。			個人・グループ
4	ボランティア論と安全管理	ボランティア精神について、意見交換をしながら理解を深める。求められる安全管理の項目と内容について理解する。			個人・グループ
5	障害の理解とスポーツ 1	障がい者スポーツの種目と障害に応じた配慮について理解する。			個人・グループ
6	障害の理解とスポーツ 2	障がい者スポーツの種目と障害に応じた配慮について理解する。			個人・グループ
7	障がい者スポーツ計画 1	障がい者スポーツの計画について理解する。			個人・グループ
8	障がい者スポーツ計画 2	障がい者スポーツの計画について理解する。			個人・グループ
9	障がい者スポーツ体験 1	障がい者スポーツの実施と体験をする。			個人・グループ
10	障がい者スポーツ体験 2	障がい者スポーツの実施と体験をする。			個人・グループ
11	障がい者スポーツ支援体験 1	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。			個人・グループ
12	障がい者スポーツ支援体験 2	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。			個人・グループ
13	障がい者スポーツ支援体験 3	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。			個人・グループ
14	障がい者スポーツ支援体験 4	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。			個人・グループ
15	障がい者スポーツ支援体験 5	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。			個人・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	課題の達成度 50%	実習評価 50%	
【教科書】	なし				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習課題を事前に提出すること。			
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
見学実習(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			病院・施設(作業療法士)勤務 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	(45)	演習・実習	1
【授業の概要・目的】					
医療機関および施設における作業療法部門の役割を理解することができる。臨床現場における作業療法士の業務内容を理解することで作業療法士としてのアイデンティティを高める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①医療機関・施設の形態や職務内容、特徴を理解し説明できる。 ②医療機関・施設における作業療法部門の役割を理解し説明できる。 ③臨床現場における作業療法士の業務内容を理解し、説明することができる。 ④「作業療法士」としてのアイデンティティを高めることができる。 ⑤専門職としての「自己課題」に気づき、行動変容のための具体的な計画を立てることができる。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【履修上の注意】専門職として重要な内容を学び、体験します。主体的に取り組むようにしてください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	実習ガイダンス① 吉田		実習の目的、スケジュール、事前準備について理解できる。実習生として学ぶべき課題を理解することができる。		個人
2	実習ガイダンス② 吉田		専門職としての態度および社会人としてのマナーを理解することができ、実践の準備性を高められる。		ペア・グループ
3	実習ガイダンス③ 吉田		実習生として「正統的周辺参加」することの意義が理解できる。実習生として果たすべき役割を列举できる。		ペア・グループ
4	実習ガイダンス④ 吉田		実習施設についての概要について情報収集することができる。質問事項を列举することができる。		ペア・グループ
5	実習ガイダンス⑤ 吉田		記録の必要性について理解できる。記録に必要な要素について理解でき、演習を通して実践の準備ができる。		個人
6	実習ガイダンス⑥ 吉田		記録の必要性について理解できる。記録に必要な要素について理解でき、演習を通して実践の準備ができる。		個人
7	実習ガイダンス⑦ 吉田		実習中に必要とされる「報連相」の内容および伝えるべきタイミングを理解し実践のための準備ができる。		ペア・グループ
8	実習ガイダンス⑧ 吉田		守秘義務・事故報告・感染予防について理解し、体験することで実践するための準備ができる。		ペア・グループ
9	見学実習①		臨床教育者のオリエンテーションを受け、実習施設の特徴が理解できる。準備した質問をすることで理解を深める。		個人
10	見学実習②		作業療法士の業務を見学することで、業務遂行のために必要な要素を理解できる。疑問点を質問できる。		個人
11	見学実習③		対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。		個人
12	見学実習④		対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。		個人
13	見学実習⑤		対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。		個人
14	見学実習⑥		対象者と臨床教育者との関わりを見学、実践することで専門職として必要なコミュニケーションを理解し修正できる。		個人
15	見学実習⑦		記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。		個人
期末試験	なし		評価方法	受講態度 30% 課題の達成度 40%	発表会の結果 30%
【教科書】	OT臨地実習マップ 第2版 MEDICALVIEW				
【参考書】	講義内で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		アルバイトやボランティアなどの社会的体験が活用できますので積極的参加してください			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
見学実習(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			病院・施設(作業療法士)勤務 吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	2	前期	(45)	演習・実習	1
【授業の概要・目的】					
医療機関および施設における作業療法部門の役割を理解することができる。臨床現場における作業療法士の業務内容を理解することで作業療法士としてのアイデンティティを高める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①医療機関・施設の形態や職務内容、特徴を理解し説明できる。 ②医療機関・施設における作業療法部門の役割を理解し説明できる。 ③臨床現場における作業療法士の業務内容を理解し、説明することができる。 ④「作業療法士」としてのアイデンティティを高めることができる。 ⑤専門職としての「自己課題」に気づき、行動変容のための具体的な計画を立てることができる。					
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	見学実習⑧	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。			個人
2	見学実習⑨	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。			個人
3	見学実習⑩	記録記載に取り組むことで、臨床教育者とディスカッションし学びを深めることができる。			個人
4	見学実習⑪	実習施設内における作業療法部門の役割および実習施設のある地域における施設の役割を理解し説明できる。			個人
5	見学実習⑫	実習施設内における作業療法部門の役割および実習施設のある地域における施設の役割を理解し説明できる。			個人
6	実習報告会① 作業療法学科教員	実習施設の概要、地域における実習施設の役割・特徴を説明できる。体験した内容から学んだことを説明できる。			グループ
7	実習報告会① 作業療法学科教員	実習施設の概要、地域における実習施設の役割・特徴を説明できる。体験した内容から学んだことを説明できる。			グループ
8	見学実習のまとめ 吉田	見学実習を通して学んだこと、自己課題を明確にし行動変容のための具体的な計画を立案することができる。			個人
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	なし	評価方法	受講態度 課題の達成度	30% 40%	発表会の結果 30%
【教科書】	OT臨地実習マップ 第2版 MEDICALVIEW				
【参考書】	講義内で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		アルバイトやボランティアなどの社会的体験が活用できますので積極的参加してください			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	